

私たちの大切な地域医療を守るために

郡上市の今後の地域医療を みんなで一緒に考えよう



▲郡上市医師会長
杉下医院 杉下院長

郡上市の医療の 現状と未来

日本はいよいよ本格的な超高齢者社会に突入し、郡上市でもすでに高齢化と人口の減少が加速度的に進展してきています。その中で、郡上市における医療の現状把握と今後の課題について、それぞれの立場の医師たちに順次本欄で報告してもらおう企画となりました。

日本には世界に誇る国民皆保険があり、昭和48年から10年間の一時期にはなんと70歳以上の医療費自己負担が無料という時代もありました。

しかしその後の急速な平均寿命の伸びに伴って医療費の財源不足となり、医療費の増大が大きな国家的問題となっていることは皆さまご存知の通りです。以前なら病気になったら受診すればいいという受動的考えが中心でしたが、昨今では自分の健

康は自分で守るべきという能動的思考が必要になってきています。ただこれは本来の姿に戻ったと言えるのかもしれませんが、医学の進歩とともに平均寿命は飛躍的に伸びていますが、それに伴って高齢者の寝たきり、認知症の増加が社会問題化してきております。

高齢弱者への郡上市医師会の取り組みは、医療と介護・福祉との統合を目指して、行政と協力しながら市民中心の「地域包括ケア」の名のもとに市内の各専門職の方々と連携して、できる限り在宅で人生の終末期を過ごしてもらおう取り組みを行っております。

過去には少しでも症状があればすぐ入院という考えが中心でしたが、これからは症状の落ち着いているお年寄りや、あるいは癌の末期であっても在宅で過ごすことができるように、多職種によるチームで支えていける体制を構築してきております。癌や脳卒中や心臓病などの急性期治療後のケアをどうするかは、かかりつけ医と多職種チームが支えていくわけですから、市民の皆様には日頃から何かあったら何でも気軽に相談できる

医療を取り巻く環境は大きく変化し、特に私たち郡上市のような地域では、医療環境の維持が難しくなっています。そのような中で市民のみなさんの健康を守っていくためには、行政や医療機関だけでなく、市民のみなさんのご理解とご協力が不可欠です。そこで郡上市における地域医療の現状や課題などを、これから広報誌でお知らせしていきます。

第1回目となる今回は、郡上市医師会長の務められている八幡町の「杉下医院」杉下院長に原稿を依頼させていただきます。

かかりつけ医を持っていただくことが重要です。

認知症の患者さんも増える一方ですが、家族の方はこれを世間から隠したり閉じ込めたりするのは大きな間違いです。今ではむしろ認知症の方を地域で支え見守る町にしていきたいものです。

我々郡上人の気質の中にはお互いの精神があります。隣近所の人が忘れっぽくなって困っているようでしたら、それを自然に受け止め、少し心配りをすることができればこの郡上は素敵な街になることでしょう。

また、今では認知症という病

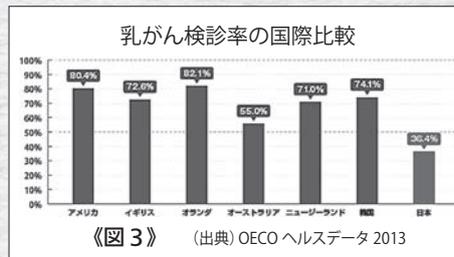
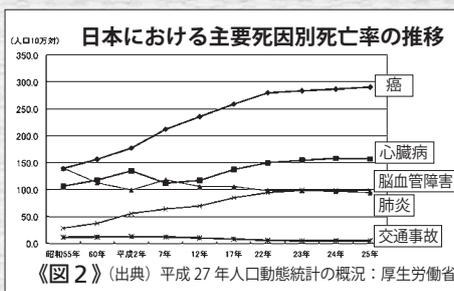
気は、できるだけ早期に診断して治療を開始すればその後の進行をかなり遅らせることができます。時代になっていきます。認知症になる人の50パーセントは原因不明ですが、残りの50パーセントは「図1」のように、高血圧・糖尿病・脂質異常・喫煙・高脂血症を放置すれば高率に認知症になりやすくなります。



バコ・肥満等の生活習慣も危険因子と言われています。

これらの対策は自分ではわからないことが多く、郡上市で毎年行っている特定健診を受けて初めて生活改善に結び付けることができる人がまだまだ多いことから、ぜひ特定健診を毎年受けることをお勧めします。

さらに、「図2」のように日本人の死因はとびぬけて癌が多く、中でも胃癌・大腸癌・



多くの人はピンピンコロリを望みますが、日本の心臓突然死は4万人足らずで、年間死亡者数は130万人です。ほとんどの人は病気で死ななくてはなりません。

郡上市における医療の将来を明るくできるのは、いくつになっても寝たきりや認知症や手遅れの癌にならないように、各人が自分の健康を自分で守ろうと

肺癌が上位を占め、女性は乳癌が増えています。

ところが「図3」のように、例えば乳癌検診率の先進国別の比較では、日本は情けないほど低く、ほかの国が60〜80パーセントです。

そんな市民の皆様を私たちはチームを組んで支援・応援してまいります。

郡上市が健康で長寿の町となりますように。